

活用集テーマA: 見積・請求・書類作成の効率化

表紙

■ 中小企業 見積・書類作成 AI活用集

— 同業他社はすでに動き始めています —

AIプラス（IYASAKA合同会社）

■ 1. 中小企業業界のAI導入状況

中小企業業界でのAI導入率は**約15%**。この数字は1年前の約1.5倍のペースで増加しています。

特に従業員50名以下の中小企業では、「大がかりなシステム導入」ではなく、**「まず1つの業務だけAIに任せてみた」**という企業が急増しています。

中でもAI活用が最も進んでいるのが、**見積書・請求書・報告書などの書類作成業務**です。

なぜ書類作成から始める企業が多いのか？理由はシンプルです。

- **毎日やっている**（頻度が高い）
- **パターンがある**（AIが学習しやすい）
- **時間がかかる割に、売上に直結しない**（やめたいけどやめられない）

この活用集では、中小企業業界と類似業種で実際にAIを導入した3社の事例を**「1日の流れ」のBefore/After**でご紹介します。

■ 2. AI導入企業の事例

— 事例① 設備工事業 A社（従業員12名） —

課題: 見積書の作成に1件あたり1~2時間。月に30件以上の見積を手打ちで作成。社長と事務員の2人だけで対応しており、現場が忙しい時期は見積が2~3日遅れることも。「見積が遅い」と言われて失注したこと。

【AI導入前のA社長の1日】

- 7:00 現場に出発。車中で昨日の問い合わせを確認
- 8:00 現場作業（午前中はほぼ現場）
- 12:00 昼休憩中にメール返信（スマホで）
- 13:00 午後も現場作業
- 17:00 事務所に戻る。ここからデスクワーク開始
- 17:30 見積書を手打ちで作成。材料費を1つずつ調べながら入力
- 19:00 2件の見積がやっと完成。まだ3件残っている
- 20:00 疲れて帰宅。残りは明日に回す
→ 「見積が遅い」とクレーム。機会損失が発生

【AI導入後のA社長の1日】

- 7:00 現場に出発。AIが昨夜届いた問い合わせに一次返信済み
- 8:00 現場作業
- 12:00 スマホで、AIが作成した見積書の下書き3件を確認
 - 「材料はこれ、数量はこれ、単価は過去実績から」
 - 修正点だけ指示。1件5分で完了
- 13:00 午後も現場作業
- 17:00 事務所に戻ると、修正済みの見積書がPDFで完成済み
 - メール送信ボタンを押すだけ
- 17:30 明日の段取りを確認して退社
→ 「見積が早い」と評判に。受注率が上がった

導入したAI: 見積書自動作成AI（過去の見積データを学習し、案件情報から下書きを自動生成）**効果:** 見積作成時間 **月60時間 → 月10時間** (83%削減)。
見積提出までの日数が平均2.5日→当日に短縮。

—— 事例② 製造業 B社（従業員25名）——

課題: 毎月の請求書・納品書の作成に経理担当者が丸3日かかる。手入力のためミスが多く、月末は毎回修正の嵐。経理担当者が休むと誰も代わりにできない。

【AI導入前の経理担当の月末】

- 25日 受注一覧をExcelからコピー。請求書テンプレに1件ずつ転記
- 26日 転記の続き。50件の請求書を手打ち。途中で計算ミス発見
- 27日 修正作業。上司にチェック依頼。3件のミス指摘。再修正
- 28日 やっと印刷・封入・発送。もう月末なのに来月の準備が何もできていない
→ 経理担当者は毎月「月末が怖い」状態

【AI導入後の経理担当の月末】

- 25日 受注データをAIに投入。50件の請求書が10分で一括生成
 - 金額・品名・数量は受注データから自動転記
 - 過去の請求パターンと照合し、異常値を自動フラグ
- 25日 AIが「この3件、前月と単価が異なります」とアラート
 - 確認して承認。修正は1件だけで済んだ
- 26日 PDF一括生成 → メール一括送信（送付先も自動セット）
 - 残り3日を来月の準備に使える
 - 「月末が怖い」がなくなった

導入したAI: 請求書自動生成AI（受注データ→請求書テンプレ自動マッピング + 異常値検知） **効果:** 請求書作成 **月3日** → **半日**。入力ミスが月平均8件→0件に。経理担当の残業がゼロに。

—— 事例③ 士業事務所 C社（従業員8名）——

課題: 契約書・申請書類のドラフト作成に弁護士・行政書士の時間が大量に取られている。似たような書類を何度も一から書いている。テンプレはあるが、案件ごとの修正に時間がかかる。

【AI導入前の士業Cさんの1日】

9:00 出勤。今日の案件確認。契約書ドラフト3件が溜まっている
9:30 1件目のドラフト開始。過去の類似案件を探すのに20分
10:00 テンプレをコピーして案件情報を書き換え。条項の追加・削除
11:30 1件完了。2件目に取りかかる
12:00 昼食
13:00 クライアントから電話。書類の修正依頼。割り込み作業
14:00 2件目のドラフト再開
16:00 2件目完了。3件目は明日に持ち越し
17:00 「先生、急ぎの案件が入りました」→ また持ち越しが増える

【AI導入後の土業Cさんの1日】

9:00 出勤。AIに「案件A: 業務委託契約、IT開発、期間6ヶ月」と入力
9:05 AIが過去100件の類似契約書から最適テンプレを選定
→ ドラフトが完成。修正候補箇所をハイライト表示
9:15 確認して微修正。1件目完了（15分）
9:20 2件目・3件目も同様に入力。30分で3件完了
10:00 空いた時間でクライアントとの打ち合わせ
→ 「書類作成」から「相談対応」に時間をシフトできた
12:00 昼食
13:00 午後は新規案件の相談に集中
→ 受任件数が増えた（対応できる件数が増えたから）

導入したAI: 書類ドラフトAI（過去の書類データベースから類似案件を検索し、案件情報に合わせてドラフトを自動生成） **効果:** 書類作成時間 **1件90分** → **1件15分** (83%削減)。月の受任可能件数が1.5倍に。

■ 3. 見積・書類作成でAI化されている業務TOP5

順位	業務	導入率	主な効果
1位	見積書の自動作成	高い	過去データから下書き自動生成。作成時間80%削減

2位	請求書・納品書の一括生成	高い	受注データから自動変換。入力ミスほぼゼロ
3位	契約書・申請書のドラフト	増加中	類似案件の検索+自動ドラフト。弁護士・土業で普及中
4位	報告書・日報の自動作成	増加中	現場写真・数値データからAIが自動作成
5位	メール文面の自動生成	広く普及	問い合わせ返信、見積送付メールなどの定型文を自動生成

1位～2位は「AIに任せててもリスクが低い業務」として、多くの企業が最初に取り組んでいます。5位のメール自動生成はChatGPTの普及で既に多くの企業が非公式に利用中です。

■ 4. まとめ — まず1つの書類からAIを始める

3社に共通しているのは、「全部をAI化しよう」としなかったことです。

- A社は**見積書だけ**
- B社は**請求書だけ**
- C社は**契約書ドラフトだけ**

まず1つだけAIに任せてみたら、想像以上に時間が空いた。

空いた時間で、本来やるべき仕事ができるようになった。それが売上や品質の向上につながった。

「全部やる」必要はありません。「1つだけ」で十分です。

□ **御社様専用のAI導入レポート**を現在作成中です。

御社のホームページと診断結果をもとに、「**AI導入後の御社様の1日**」を描いたレポートを2-3営業日以内にお届けします。

